

日新輝道



東大阪市立日新高等学校

校長室通信 日比野 功

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

2020. 06. 01 発行

日新高校は、「日本一」輝きを放つ学校を目指します！

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」で夢を実現させます！

「日新高校生は凄いな、流石だな」と信頼される輝きを放て！

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が解除され、学校も6月より分散登校が始まり、15日(月)からは通常授業が再開されます。緊急事態宣言が解除されたからといって、すべてのことが通常に戻る訳ではありません。解除された直後だからこそ、さらにしっかりと意識を持って行動しなければならないことがたくさんあります。緊急事態宣言解除後に心配されていることは、第二波、第三波が予想されるということです。そうならないためにも、いま自分たちができる最大限のことを、確実にきっちりと考えて行動する必要があります。先日の分散登校の際にも放送で伝えましたが、毎日の検温・体調管理、マスクの着用、学校内におけるソーシャルディスタンス等、一人ひとりにできることは大きいことではありません。しかし、日新高校全体が間違いなくきっちりと徹底されているということが大切です。日新高校では「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」を「勝因」、「いい加減」「適当」「だいたい」を「敗因」としてありますが、まさしく一人ひとりができることを「ていねい」に行ってください。決して「いい加減」に、「だいたい」に、「適当」な様子では困ります。気の緩みは禁物です。「日新高校生は凄いな、流石だな」と言わせたいと思っています。

深く物事を考えること、ていねいに物事を考えること、それは「当たり前」！

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う報道等からもいろんなことを考えさせられます。例えば医療従事者の方々と、感染症治療に向き合う中でホテル住まいをし、自宅にも戻らない生活をされている方々がおられます。理由は「もし、自分が感染していたら家族にも感染させてしまう恐れがあるから。」ということでした。また、一般の方々もマスクの着用について、「コロナ感染が怖いから」と言われる方もありますが、「もし、自分が感染していたら他の人に迷惑をかけてしまうから。」と話される方々も多くおられます。一方、全く無防備な方が「自分はやりたいことがあるので、我慢していても仕方がない。自分が感染するのも覚悟のうちだ。」と話される報道もありました。6月から分散登校が始まり、15日(月)からは通常授業が再開されますが、自分のことだけを考えているだけでは困ります。学校という場所で共同生活をするのですから、それが当たり前です。日新高校では、小さいことでも自分にできることは「ていねい」に行って、学校全体が

力を合わせているという意識を定着させましょう。まだまだ我慢しなければならないことはたくさんありますので、一人ひとりがしっかりと考え行動して下さい。

プレーさせてもらっている・・・「感謝」の気持ちを大切に

今年度はインターハイをはじめ、高校生にとって多くの表現、発表の場が失われています。文化的な大会も続々と中止が決定しました。先日、全国高等学校野球選手権大会(夏の甲子園ならびに各地方大会)も中止が決定しました。野球に限らず、全国の部活動を指導されてきた先生方は、生徒たちにどのような思いでそれぞれの大会の中止を伝え、どのようなことを生徒に託すのかと考えさせられました。その中で少し気になる場面がありました。それは夏の甲子園が中止決定されたことを知らせる高校球児へのインタビューの場面でした。ニュースでは大半が甲子園出場に手が届きそうな強豪校に対してのものが報道されています。しかし全国にはたとえ地方大会の初戦しか戦えないチームであっても、「野球」という競技に対して、本当に「野球道」と呼ぶに値する素晴らしい練習に取り組んできているチームもたくさんあります。また、野球には野球部の生徒だけでなく、吹奏楽部やチアリーダー部等々、野球部の生徒と同じようにこの大会に臨んでいた生徒たちもいます。さらに、裏方として、応援として、また大会を運営する立場としても多くの方々がこの大会を創り支えておられます。そうしたシチュエーションの中での大会中止決定でした。中止の決定を受けた高校生たちへのインタビューでしたが、その内容には様々な思いが見え隠れしました。これまでの部活動で、どのようなことを大切にしてきたのかということが感じられるインタビューもありましたが、残念ながら、自分のことしか考えることができていないと感じるインタビューもありました。日常には自分たちが知らないところで多くの誰かが汗をかいてくださっていることがたくさんあります。例えば野球の大会なら、自分たちの知らない、お会いしたこともない皆様が、時間を割いて協議を重ね、球場という場所を確保し、そこには当然運営に係る費用や時間も含めご尽力を頂いています。一つの大会を開催するには並々ならない多くの方々のご尽力やご厚意が積み重なっています。何もしないで簡単に大会を開催できるはずがありません。選手は、そのような環境や状況をセットしてもらって試合ができたり、自分のプレーを発揮したりすることができています。それはレギュラーであろうとなかろうと同じです。単なる勝ち負けだけでなく、多くの思いを受け、感謝の気持ちを持ってそれに応えるプレーをすることが重要です。いつも誰かにセットしてもらったことに甘えてプレーをしているだけでは、感謝の気持ちも持てず、ただ単に自分のことだけを考えたプレーとなってしまいます。感謝の気持ちを持った選手、きっとそんな選手を自然と応援し、また、そんな選手が感動的なシーンを創ってくれるのだと思います。自分のことしか考えることができないのは淋しい気がします。自分の思いを正しく伝えることのできる発言、感じていただくことのできる態度は「人格」のなしえるところだと感じました。日新高校の生徒諸君は「日本一」輝いて欲しいと思っています。